

白狐の湯

作曲／芝祐久 原作／谷崎潤一郎

あらすじ

この村には昔から「月夜の晩に白い狐が湯浴みをし、それを見たものは狐憑きになる」という言い伝えがあった。ある夜、村のお小夜は家を飛び出していた従兄の角太郎を探しに、川のほとりの温泉小屋まで来ていた。仕事帰りの母に見つかり「角太郎は狐に憑りつかれたのだから諦めろ」とたしなめられるが、諦めきれずに戻ってくると角太郎を見つける。お小夜と一緒に帰ろうと促すが、角太郎は温泉小屋に月明かりが差すのを見るや、「あそこに湯あみしている女性は、神戸に居た頃に会ったローザさんという西洋人だ」と言ってお小夜の制止を振り切る。角太郎は、狐が化けた金髪の子をローザと信じ込み、想い人に会えた嬉しさにローザから貰ったというハンカチを見せ、思い出話や淡い恋心を抱いていたことを話し、それに応える女を信じ切り、虜になってしまう。すると女は狐の本性を現し、「私の生まれた国へ行きましょう」と角太郎を促して川上へと連れ去る。暫くして、お小夜が母と巡査をつれて戻ってくるが、角太郎と女の姿は無い。そこへ白人の女（本物のローザ）と紳士、その召使いが現れ、「このハンカチは神戸に居る頃に盗まれた私たちのもの」と言って山を下りて行く。そして川上から村人の叫ぶ声がする。「角太郎が死んでいる」と。

キャスト

	9/23(土・祝)	9/24(日)
角太郎	日下部祐子	松浦綾子
お小夜	辻村明香	中野陽登美
お小夜の母	井岡潤子	久本幸代
白狐	橘 知加子	河邊敦子
召使	脇本圭奈子	福井由美子
巡査(両日)	田中由也	
狐1	長太優子	岩本真利
狐2	伊藤あかね	仁田依里
村人1(両日)	岡成秀樹	
村人2(両日)	井上稜誠(助演)	
白人の女 ローザ(両日)	林 圭子	
白人の男 ケリー(両日)	真柴 識(助演)	

指揮：船曳圭一郎
 演出：藪川直子
 管弦楽：ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
 舞台監督：岩崎由香（ザ・スタッフ）
 衣装：村上まさあき（東京衣裳）
 舞台美術：野崎みどり
 音響：平井英一（サンオープランニング）
 制作：関西歌劇団

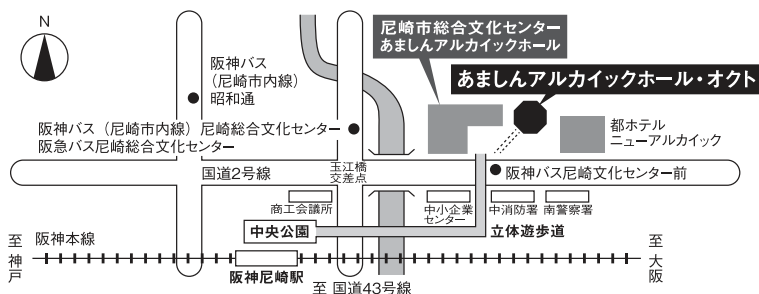
※やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございます。

赤い陣羽織

作曲／大栗裕 原作／木下順二

むかし、とある田舎にとぼけた顔の「おやじ」と、とびきり別嬪の女房の「おかか」が仲睦まじく住んでいた。おかかに横恋慕している代官は、赤い陣羽織を風になびかせやってくる。ある日、代官はおやじを庄屋に捕えさせておやじの留守を狙うが、この企みに気がついたおやじが家にもどると、代官の陣羽織が脱ぎすてられていて、おかかを呼んでも返事がない。女房を寝取られたと思ひ込んだおやじは、仕返しに代官の奥方を寝取ろうと陣羽織を着こみ、代官の屋敷へ向う。実は代官は忍びに行く途中で川へ落ち、おかかに蹴で殴られ気を失っていたのだった。代官は目を覚ますと陣羽織が無くなったことから、おやじの企みに気づき、慌てて屋敷へ戻る。おかかと庄屋、子分も「これは一大事!」と代官の後を追って代官屋敷へ向かうことに。一方、代官になりすましたおやじは、奥方の寝所へ向うが、奥方の気高さうたれて手も足も出ない。代官とおかかが屋敷に駆けつけると、「お代官様の名をかたる不屈者!」と本物の代官は縄をうたれてしまう。奥方の気の利いた裁きで夫婦は無事に仲直り。代官はただただ平謝りするのだった。

	9/23(土・祝)	9/24(日)
おやじ	橋本恵史	林 誠(名誉劇団員)
おかか	高木ひとみ	西原綾子
代官	井上元気(客演)	清原邦仁
奥方	樽谷昌子	福住恭子
庄屋	井上敏典	富永奏司
子分	孫 勇太	清水崇香
孫太郎	近藤勇斗(客演)	橋本恵史
腰元(両日)	西尾 薫・大塚真弓・折笠 舞・岡本真季	
奴(両日)	田中由也・岡成秀樹・真柴 識(助演)・由留木健吾(助演)	
門番(両日)	井上稜誠(助演)・小林俊也(助演)	



尼崎市総合文化センター 兵庫県尼崎市昭和通2丁目7-16 お問い合わせ Tel: 06-6487-0910 (事業課 事業担当)

前売券 発売所 関西芸術振興会・関西歌劇団 Tel: 06-4801-8185 (平日 10:00 ~ 18:00) 尼崎市総合文化センター Tel: 06-6487-0810 (9:00 ~ 19:00) チケットぴあ Tel: 0570-02-9999 (Pコード: 336-832)